

括目(かじもく)

北原 巖男 隊友会理事(元防衛施設庁長官)

これまでにない厳しい国際安全保障環境の中で、この3月、岸田文雄首相は「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」のための新たなプラン」を公表しました。

そこでは、「今後取るべきアプローチ」として、①大国・小国の別なく対話し協力してのルール作り②各国間のイコールパートナーシップ③人に着目したアプローチを、更に米・豪・インド・ASEAN諸国・太平洋島嶼国・韓国・カナダ・欧州等と

の連携強化、中東やアフリカ、中南米に至るまで、FOIPのビジョンを共有する輪を広げ、共創の精神で取組を進めていくこと、を強調しています。防衛外交を含むあらゆる外交の場、機会において、相手のことを改めてよく知ったうえで、このアプローチを丁寧に実践して行つて頂きたいと思ひます。

こうした中、7月1日、アジアで一番新しい国、東ティモールでは、独立の英雄であり国父であるシヤナナ・グスマン氏が8年振りに首相に復帰し、新内閣がスタートしました。



時の動き

こうした中、7月1日、アジアで一番新しい国、東ティモールでは、独立の英雄であり国父であるシヤナナ・グスマン氏が8年振りに首相に復帰し、新内閣がスタートしました。

本年5月21日、民主的かつ整齊と実施され

集された国民議会における女性議員の割合は、日本が目標としている3割を有に超えています。

「世界経済フォーラム」

が公表した「世界男女格差指数ランキング2023年版」を見ますと、調査した世界146か国中、日本の総合順位は125位。東ティモールは95位。特に女性の「政治への関与」は、日本の138位に対し、東ティモールは遥かに上位の60位となっているのです。

2002年5月の独立回復から21年。一刻の猶予もならない国民生活の向上・国づくり・外交案件への取組。「国民ファースト」を掲げるグスマン首相に寄せる東ティモールの国民の期待は極めて大きいものがあります。

グスマン首相は女性の積極的登用にも力を入れ、2名の副首相を除く新閣僚19名のうち4名は女性。最重要閣僚の財務大臣をはじめ保健大臣、教育大臣、社会運帯・インクルーシジョン大臣に配してあります。ちなみに、選挙後招

ライ国民議会議長(女性)、フレイタス外務・協力大臣等を表敬、意見交換等を行いました。

7月7日付け外務省HPにより、武井外務副大臣は、グスマン首相には岸田首相からの、ライ議長には細田衆議院議長からの、それぞれ祝辞を手交された由。

更に同HPは、グスマン首相表敬時について、「武井外務副大臣は、組閣直後の新政権と直接意思疎通を行うことは、我が国としての東ティモールへの強いコミットメントの表れである旨伝えました。これに対し、グスマン首相から、これまでの日本による支援に対して謝意が表されるところも、今後とも日本との協力を継続・強化していきたいとの期待が述べられました」と明記されています。

7月6日付け東ティモール政府HPも、同旨を伝えると共に、会談の席上、グスマン首相が武井外務副大臣の来訪に感謝表明されたことを掲載しています。

組閣直後に武井外務副大臣を東ティモールに派遣したことは、新政権との速やかな信頼関係を構築するうえで有用です。しかし、グスマン首相との会談直後、武井外務副大臣が内外のメディアの前で述べた発言(日本語)には、違和感を覚えます。正直、僕はガツカリしました。

「……特に、こうして新政権組閣直後に私が伺わせていただきました。これ自体が、我が国が東ティモール、御国(おくに)を重視している証だ」というように理解して頂きたいと思ひます」

通訳の方がどう訳されたか、僕には分かりませんが、僕には、上から視線の、驕りにも似た発言ではないでしょうか。同副大臣の傍らに立たれていたグスマン首相はどんな思いで聴いていたでありましょう。東ティモールの皆さんは、敏感に感じると思ひます。(ちなみに、7月7日には、オーストラリアのペニー・ウォンク外務大臣がグスマン

首相等を訪問しています。東ティモールは、独立を回復してまだ21年の若い国です。しかし、もはや「昔の」、「数年前の」、或いは「あの時の」東ティモールではないのです。彼らは懸命に努力し、その当時からすれば見違えるほどに成長しているのです。

このようなことは、おそらく一人東ティモールのみならず、世界各地の多くの途上国やグローバル・サウスと呼ばれる国々でも起きているのではないのでしょうか。こうしたことを注意深く踏まえ、理解したうえで日本外交の推進が求められます。中国の古典「十八史略」に紹介されていた呉の武将呂蒙の故事を思い出しています。

「士別れて三日なれば、即ち當刮目して相待べし」

「士たる者、別れて三日もすれば、大いに、見違えるほど成長しており、次に会うときには目をこすつて違つ目で見なければなりません」

(きたはら・いわお)